

「人物ライブラリー・学術の記録」第1期制作を終えて

プロジェクト主査 佐々木 正實

「人物ライブラリー・学術の記録」の制作は、昭和63年に始まった。

この企画のねらいは、当時の企画書によれば次のとおりである。「学問研究の各分野で、後世に残る業績をあげ、今なおかくしゃくとして影響力をもつ現存の人物——その魅力ある人物像に迫りつつ、その業績を学問の歴史の上に位置づけることを試みる。学問研究をライフ・ヒストリーとして描くことで、1人の人物の関心の原点や、一貫した思想をよみとることができ同時に学問研究の各分野の進展や、ターニング・ポイントもみえてくるだろう。それはまた、時代の流れとも無関係ではない。スケールをもった人物のライフ・ヒストリーをとおした「学術の記録」シリーズとしていきたい。」また、『収録した記録はライブラリー化し、全国の大学における教材その他、多様な活用に供するものとしたい。』ともうたっている。

前回までに取り上げた学者は8人にのぼる。

西洋経済史	増田四郎篇	ストレートトーク形式	昭和63年度制作
古代オリエント史	江上波夫篇	インタビュー形式	平成元年度制作
建築学	芦原義信篇	ストレートトーク形式	平成元年度制作
哲学	久野 収篇	インタビュー形式	平成2年度制作
筋生理学	名取禮二篇	インタビュー形式	平成2年度制作
発生生物学	岡田節人篇	インタビュー形式	平成3年度制作
古代インド思想	中村 元篇	インタビュー形式	平成3年度制作
農業経済学	安達生恒篇	インタビュー形式	平成4年度制作

そして今回は、梅棹忠夫篇である。その構成、内容については、本篇で詳しく報告されているとおりでである。

10人目以降についての企画は、今のところ無い。以下、その理由を述べたい。

「人物ライブラリー・学術の記録」9篇は、的確な人物選定に加えてインタビュアーにも恵まれ、更に担当のディレクターが、心血を注いで演出した結果、企画書どおり重厚な「学術の記録」となった。

しかしながら、「ライブラリー」化の作業の方は、思うように進んでいない。

膨大な「トーク」を公開できる状態に整理するのは、実はそれほどやさしくはないのである。どんな媒体に記録し、どんな索引を作ったら利用しやすくなるのか。今、我々は、文字どおりの「人物ライブラリー」を目指して、検討をしているところである。

その方向が定まった時点で、第10篇以降の制作を再開したい。こうした願いから敢えて、はしがきの表題に「第1期制作を終えて」と付け加えたのである。

終わりに、今回の梅棹忠夫先生をはじめ、この7年間にお世話になった多くの皆さんに心から感謝申し上げたい。